

第5回 FC-Cubic 技術交流会を開催

12月12日(火)に第5回 FC-Cubic 技術交流会を集中拠点の近くにあるタイム24ビルの13階研修室にて、開催いたしました。

技術交流会は、松田理事(東芝燃料電池システム株式会社取締役技師長)からの主催者挨拶で始まり、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO) 新エネルギー部 燃料電池・水素グループ新エネルギーシステム課主任研究員の原大周様よりご来賓の挨拶をいただきました。

技術交流会は例年8月から9月にかけて開催をしていましたが、各種行事が重なったため、今年はFC-Cubic シンポジウムと合体させ、開催いたしました。前半の部は、我々が進めているNEDOのプロジェクト事業の紹介と意見交換を中心に行いました。昨年に引き続き、研究所長の篠原より、NEDOプロジェクトの全体概要を紹介した後、各サブテーマリーダー、リーダー代理よりサブテーマ毎の取組内容・成果についての紹介を行いました。

コーヒーブレイクを取りながら、前述のサブテーマの中の、それぞれの研究機関が担当している内容について、ポスターを用いて説明すると共に、ご参加いただいた方との技術交流、意見交換が行われました。また並行してテレコムセンター駅近くにある本田技研工業株式会社様が環境省の補助事業で行っているスマート水素ステーション(SHS)の見学会を行いました。寒波で寒い中でしたが、100名近い方が見学会に参加されました。

後半の部は例年のシンポジウム同様に、Queen's University の Professor Gregory Jerkiewicz 氏より、“Characterization and Electrochemical Stability of Pt, PtNi and PtCo Nanoparticles Applicable to Fuel Cells”、Simon Fraser University の Professor Michael Eikerling 氏より“Hierarchical Modeling of PEFC Catalyst Layers”の講演があり、最新の技術情報を聞くことが出来ました。最後に、米国および業界の技術動向の報告として、FCCJ 要素基盤技術WG主査の、日産自動車株式会社先端材料研究所主任研究員の大間敦史様から「DOE-AMRレポート」のご講演があり、米国における燃料電池の技術動向を聞くことが出来ました。

最後に専務理事の大仲より閉会の挨拶があり、第5回の技術交流会を閉会した後に、場所を11階のシーガルに移動し懇親会を行い、産学官の研究者の交流、意見交換の場として大いに盛り上がりました。

今回は技術交流会に145名、懇親会に96名の方が参加され、皆様のお陰で昨年同様に、技術交流会を盛大に終えることが出来ました。お忙しい中、ご参加いただきました方々に深く御礼申し上げます。

ただ、本年は燃料電池業界の動向が主の技術交流会と、研究開発等の専門的な講演が主のシンポジウムと合体したこともあり、こちらからの発信が上手く出来なかったのではないかと感じております。

来年以降は皆様方に有益な情報をお伝え出来るような技術交流会、シンポジウムを開催し、皆様が技術交流の場、意見交換の場として活用していただけるように進めていきたいと考えております。皆様からのご指導ご鞭撻をいただくと共に、引き続きのご参加、ご協力をお願い申し上げます。



講演会会場



SHS 見学会



ポスター会場



懇親会